

3 2 . 食用野生きのこの人工栽培試験

(3) ヌメリスギタケモドキ栽培試験

桃澤邦夫

〔目的〕

既述(1) ムキタケ栽培試験に同じ。

〔方法〕

- ① P P (ポリプロピレン) 袋栽培試験
- ② 間伐材利用の P P (ポリプロピレン) 袋栽培試験
- ③ 間伐材利用の原木栽培試験

上記の試験内容及び方法は前項(2) ヌメリスギタケ栽培試験に同じである。供試した菌株は当場に継代培養しているものを用いた。

〔結果〕

試験の概要と子実体の発生時期を表-1に示す。既存の発生調査からヌメリスギタケ同様に春秋の二期発生の性質を持ち不時栽培に好適な性質であろうと思われるが、今年度は春季の発生はみられなかった。秋季の発生は過去の発生実績の幅内に含まれるものであった。

1. P P (ポリプロピレン) 袋栽培試験

'91(H3)年度から今年度までの各試料の発生状況を図-1に示した。丸太1本区は接種当年から発生をみたのに対し、他は翌年春からの発生となっている。菌の蔓延の早いと思われる丸太半割区が早期に発生に至る傾向はみられなかった。

発生3年目の昨年度は、2年目に比べ発生試料数、発生量とも極度に落ち込だが、今年度は丸太1本区で無発生、丸太2本区でさらに落ち込み、丸太半割区でやや回復となったが、低調な状態のままであった。本種の場合もヌメリスギタケの場合と類似しており、短木ほだ木の収穫年限は4年程度が限度であると思われる。

形態区分別に集計した平均発生量を図-2に示す。単年度では試料間のバラツキがより大きいため、図-2の5ヶ年累計値で各区試料の平均発生量について検定したところ、いずれの区分間相互においても10%レベルでも有意差はみられなかった。

2. 間伐材利用の P P (ポリプロピレン) 袋栽培試験

3ヶ年の各試料の発生状況を図-3に示した。檜原-1は今年度無発生であった。一方五日市-1は10試料のうち4試料の発生で量的には各試料とも昨年度を下回った。

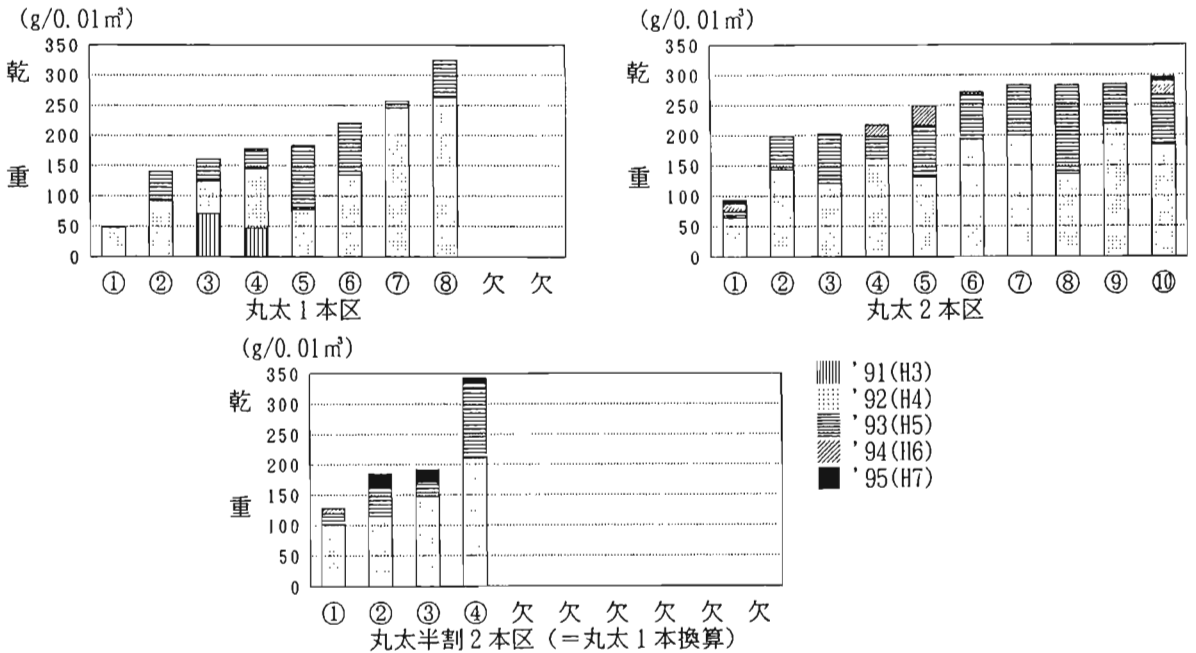
菌系統別に集計した平均発生量を図-4に示す。前記同様、単年度ではバラツキが大きいため3ヶ年累計値で各区試料の平均発生量(乾重)について検定したところ、1%レベルで有意差があり、現時点においては五日市-1の発生が活発である。これは檜原-1が3ヶ年のうち1年しか発生をみていないことが影響しているものと思われる。

本試験における子実体の乾燥歩留をほだ木形態別とスギ間伐材利用の双方を統合して、表-2に示した。'91(H3)~'93(H5)では概ね12%前後であるが、'94(H6)年度以降には発生絶対量が少ないため、発生日の天候に左右され値が大きく変わっている。

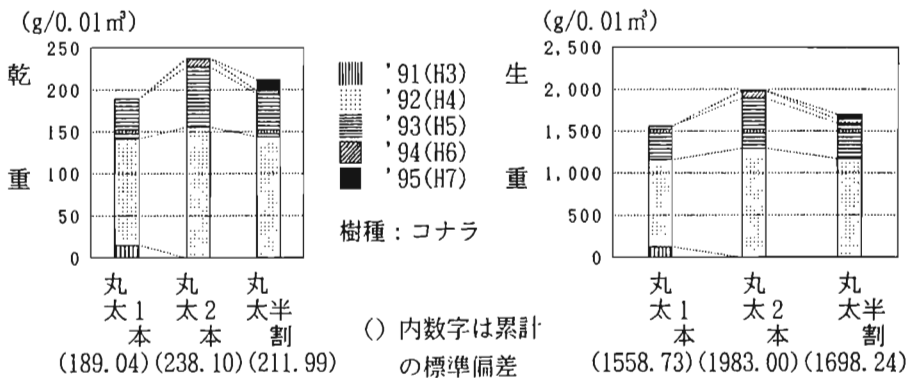
表一 1 ヌメリスギタケモドキの栽培試験区及び各年度の子実体発生時期

栽培方式	菌系統	発生試験対象木			接種	埋土	発生時期				
		樹種	形状寸法	供試数			'91(H3)	'92(H4)	'93(H5)	'94(H6)	'95(H7)
PP袋栽培	檜原-1	コナラ	φ6.9~8.0平均7.4cm, L=25cm 丸太1本	8組=0.0110m ²	'91(H3) 6/19~ 7/3	'91(H3) 10/23~ 11/18	11/10	4/27~7/3 10/15-10/26	5/7~6/7 10/21-11/5	発生なし	発生なし
		コナラ	φ5.8~7.4平均6.6cm, L=25cm 丸太2本	10組=0.0224m ²			発生なし	4/27~6/16 10/19-10/26	5/7~5/27 11/2-11/5	4/14~4/27 12/1	10/24-11/14
		コナラ	φ7.5~8.8平均8.1cm, L=25cm 丸太半割2本	4組=0.0065m ²			"	4/27~6/2 10/19-10/26	5/7~6/7 11/5	4/14 11/10	10/20-11/14
間伐材利用PP袋栽培	五日市-1	スギ	φ6.7~10.0平均8.5cm, L=25cm	10本=0.0185m ²	'93(H5) 7/9	'93(H5) 10/7	---	---	10/28-11/5	5/30 10/31-11/10	11/14
	檜原-1	スギ	φ5.4~11.3平均8.1cm, L=25cm	10本=0.0170m ²			---	---	発生なし	10/31-11/7	発生なし
間伐材利用原木栽培	五日市-1	スギ	φ6.6~10.5平均8.5cm, L=90cm	10本=0.0662m ²	'93(H5)	該当なし	---	---	発生なし	発生なし	発生なし
	檜原-1	スギ	φ8.0~11.8平均9.5cm, L=90cm	10本=0.0822m ²			4,22	---	---	"	"

P.P袋栽培はオートクレーブ 1.2気圧、120℃、70分滅菌後、種菌100g/袋接種
発生時期の期日は収穫日



図一 1 ヌメリスギタケモドキPP袋栽培における
ほだ木形態区分別各試料の子実体発生量



図一 2 ヌメリスギタケモドキPP袋栽培におけるほだ木形態区分別子実体平均発生量

3. 間伐材利用の原木栽培試験

今年度は昨年度に引き続き五日市-1, 檜原-1の2系統とも発生をみなかった。

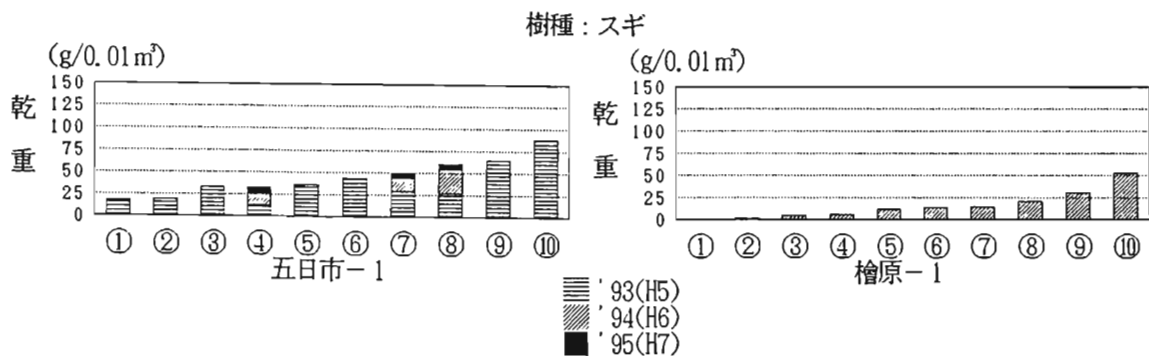


図-3 ノメリスギタケモドキ間伐材PP袋栽培における各試料の子実体発生量

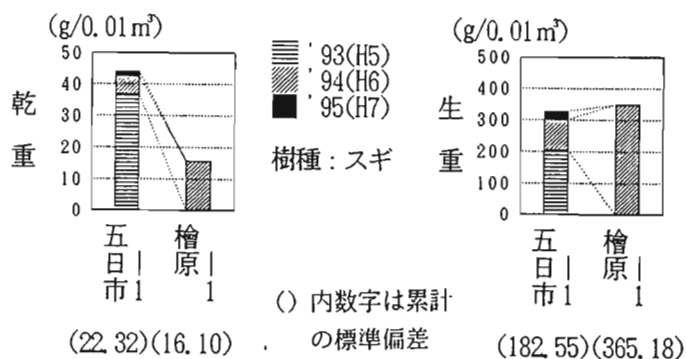


図-4 ノメリスギタケモドキ間伐材PP袋栽培における菌系統別子実体平均発生量

表-2 ノメリスギタケモドキ子実体歩留係数 (単位%)

PP袋栽培試験		コナラ～(ほだ木形態別)			スギ間伐材	
区	分	丸太1本	丸太2本	丸太半割	五日市-1	檜原-1
発 生 年 度	'91(H3)	12.0	発生なし	発生なし	—	—
	'92(H4)	12.2	12.0	12.9	—	—
	'93(H5)	12.0	12.0	12.0	18.0	発生なし
	'94(H6)	発生なし	12.0	8.3	5.4	4.5
	'95(H7)	発生なし	16.6	22.4	8.2	—

(乾重量/生重量)